

ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム学生革新企画

The 1st students meeting of Leading Graduate Schools

開催期間: 2013年10月26日 ~ 10月27日

代表者氏名:

渡辺 美紀

計画立案メンバ氏名:

中西 惇也



目次

企画報告書	・ ・ ・	3
参加報告書	・ ・ ・	5
企画提案書	・ ・ ・	14

企画報告書

概要

兵庫県立大学山岡望海さんの呼びかけのもと、全国のリーディングプログラムから17プログラムが参加するリーディング大学院生の交流会議に出席した。学生同士が直に経験をやり取りし、互いに触発され合って、リーダーに必要とされるスキルについて議論・体感上で考えたり、志を同じくする者が集まることで自らのコミュニティを広げ、他専門分野とかかわることでジェネラリストとしての幅広い見識を獲得し人間力を築きあげたりすることを目的として、学生のみで企画し開催された。ヒューマンウェアプログラムも参画している。普段の「先生から学生」ではなく、「学生から学生」に伝わるもの、学生の視点で意見交換をする事を大事と考えており、JSPS 主催のリーディングプログラムフォーラムとは一味違うものをなっている。また、すべての進行・議論を英語で行ったことも学生の成長につながる大きな成果である。

反省点・今後の改善点

会議に参加するという点においては反省する点はない。各個人触発されるものがあり、大変有意義な経験になっていることを確信している。特に、他大学のリーダーを目指す姿を目の当たりにし、今自分は何ができていて何が必要なのかを見つめなおせたのではないかと思う。阪大以外のリーディングプログラムとの交流は初めてであり、リーダー像に対する考え方の視野が広がった。参加レポートにおいては、英語スキルの不足を反省する者が多くいた。今後の成長の糧となるであろう。この会議のヒューマンウェア学生に与えたインパクトは大きく、これからの活動を活発にさせる起爆剤になるだろう。

参画する身としては、今回の会議構成は一回目の学生のみで行う会議であることを考慮すれば及第点を与えてもよいが、反省する点は数多くある。交流するという点は大いに成功したと思うが、議論するという点では時間が短く十分に議論できたとはほとんど言えない。それはスケジュールの組み方に起因するが、根本的な問題は企画していく方法そのものにある。メールで議論のやりとりをしていたが、意見を集約するのみで検討する段階には踏み込むことができなかった。代表者のみの会議で、次回開催について話し合い、開催校の特色を尊

重するという意味も含めて、開催校が取り組み方から考えていくことになった。
この会議はリーディング学生にとってためになるものであるので、一歩ずつの
会議の改善を期待する。

－会議の様子－



参加報告書

氏名:.....日浅 夏希.....:
所属:.....情報科学研究科.....:

企画名: The 1st student meeting of LGS (Leading Graduate Schools)

開催期間: 2013/10/26～2013/10/27

概要

本研修会は、リーディングプログラムに在籍する学生同士が意見を交換し、求められるリーダー像の共有やネットワークの形成を目的としていた。また、互いの経験をやり取りすることで必要とされるスキルの向上や、プログラムの活性化も期待された。1日目は William Lee 氏の講演と、「日本に足りないものは何か」というテーマに沿った自由討論を行った。2日目には「日本で今後求められる人材」についてグループディスカッションを行い、各グループの意見を発表した。また、懇親会では各人が研究や自身のプログラムについて紹介し合い、プログラム間での交流を深めた。

企画で得られた収穫

本会では日本や世界においての問題や、これから求められる人材について盛んに議論を行った。ここではプログラムの違いで意見の差が見られ、自分になり考えに触れることができた。また、“日本人には失敗を恐れない気持ちや、コミュニケーション力の向上が必須だ”という意見が多くあった。自分がプログラムで活動する際には、この意見を意識したいと思う。

感想・反省点・今後の改善点

今回は全て英語で進められたが、自分の意見を正確に英語にすることが難しく、改めて英語教育の重要性を感じた。研修会では様々な意見が得られたが、一方でテーマ設定が広すぎると感じる場所もあった。“具体的にプログラム履修生がすべきこと”について議論できるテーマを考えるべきだと感じた。

参加報告書

氏名:.....垣塚太志.....:

所属:.....生命機能研究科.....:

企画名: The 1st student meeting of LGS (Leading Graduate Schools)

開催期間: 2013/10/26～2013/10/27

概要

全国に 44 あるリーディングプログラムのうち、18 のプログラムが集まって、でスカッションを行う。

企画で得られた収穫

他の大学のリーディングプログラムを知ることができ、いい刺激になった。また、ゲストスピーカーとして招かれていた Lee 先生と話す時間も作れて、将来のキャリアについて相談をすることが出来た。

感想・反省点・今後の改善点

ディスカッションがメインの会だったと思うが、実際に行ってみると時間はすぐに過ぎてしまい、もっといろいろ議論したかったと感じた。限られた時間の中でも濃い議論が出来るように、自分の言いたいことを簡潔にかつ効果的に話せるようになる必要があると感じた。

また、英語で行われた全体ディスカッションは、おもに外国人の方が発言していた。だいたい議論の内容は把握できたが、自分の意見をうまく英語にするのが難しく、発現できなかった。もっと英語力をつけて自分の意見をうまく伝えることが出来るようにならねばと思った。

これからも、今回のように他大学の学生と交流できる場には積極的に参加し、狭い世界に閉じこもらないようにする助けにしたいです。

参加報告書

氏名:..... 澤田 莉沙.....
所属:..... 生命機能研究科.....

企画名: The 1st student meeting of LGS (Leading Graduate Schools)

開催期間: 2013/10/26～2013/10/27

概要

全国各地の大学に属するリーディングプログラムの学生達が一同に集まり、お互いの専門分野を説明したり、次世代に期待されるリーダー像について話し合ったりした。全体の流れとしては、ゲストスピーカーによる『これからの担うリーダーに期待すること』という講演を聴き、次に各プログラムの紹介があり、その後全体討論で『日本の改善点』について考え、会の最後にグループディスカッションを行い『リーダーとは何か』ということについて意見を交し合った。

企画で得られた収穫

- ・“リーディング”とは、次世代を担うリーダーの育成のためのプログラムであり、それぞれの大学や分野から、問題解決に向けての多様なアプローチを行っていることが分かった。
- ・国際社会における“個性のない”日本の立場や、これから日本が個性を得るためには、国際社会でのリーダー輩出などの積極的なアプローチが必要ではないだろうか、ということらを基調講演の先生から学んだ。
- ・あらゆる議論に参加するためには、英語スキルがまず一番に大切であることが分かった。

感想・反省点・今後の改善点

リーディングプログラムの学生が集まることにより、色々な視点から見た“世界をよりよくしていく戦略”を聞くことができたことは、私にとって大変よい刺激となった。今後もこういった機会があれば、積極的に参加したい。一方で、会全体が基本的に英語で進められたため、自分自身の英語スキルの低さによって、ディスカッションや全体討論に活発に参加することができず、悔しい思いをした。リーダー人材を目指すためには、もっと英語スキルを身につける必要があることを身に染みて感じた。

参加報告書

氏名: THAMMASAN Nattapong.....

所属: 情報科学研究科 情報数理学専攻.....

企画名: The 1st student meeting of LGS (Leading Graduate Schools)

開催期間: 2013/10/26～2013/10/27

概要

This is a meeting for leading program students from universities nationwide.

企画で得られた収穫

We could create connection from one leading program to other program in Japan and had chance to exchange academic talks with another discipline. Moreover, we had chance to find out the meaning and way to improve leading skill.

感想・反省点・今後の改善点

I have strong impression with Keynote Speaker's speech. He gave us very good motivation and give some example of career path. We had an opportunity to discuss current situation of Japan, especially in scientific perspective, which give me clearer picture about Japan.

The event was quite organized well, but there was some points for future improvement. The English of organizer was rather confused. Sometimes we could not understand the procedure, question, or instruction in the same direction. Anyway, this was very good place to practice English for organizer and participants as well.

Moreover, the place for party at night was quite suitable for connection making due to limited size of place and limited time. It would be better if it was organized at more freedom venue for social interacting.

参加報告書

氏名:.....中西 惇也.....
所属:.....基礎工学研究科.....

企画名: The 1st student meeting of LGS (Leading Graduate Schools)

開催期間: 2013/10/26～2013/10/27

概要

全国44あるリーディングプログラムから17つのプログラムのリーダー候補生が集い、学生のみで日本の将来や求められる人材について議論を行ったり、情報交換などの交流を行った。

企画で得られた収穫

- ・それぞれのプログラムの目指す方向やその活動・雰囲気などを知れた。面白い活動はぜひ取り入れたいと思う。
- ・他大学のコミュニケーション能力・議論力・英語力の高さに感化された。モチベーションに直結する良い刺激となった。
- ・この企画に携わり、企画を草案・運営する貴重な経験ができた。

感想・反省点・今後の改善点

大阪大学内のプログラムだけでは得られない、異なった文化といってもいいほどの心意気・活動力にとっても感化された。特に学生のみで行っている点が非常に良かった。誰も何も示してくれず、どうしても自分で考える必要が出てくる。リーダー力というものを議論上だけでなく、実質的な面でも考えさせられた。

また、他大学の学生とぶつかり、やはり自分の議論力、英語力の弱さを痛感した。これから積み上げていきたいと思う。

学生のみで行った初回の会としては、うまくいった方であると感じた。企画に関わり、今まで見上げていた世界が手元まで降りてきたようにも感じた。このような会はこれからも続けていくべきで、いずれ大阪大学で主催したい。

参加報告書

氏名: 李樂施.....:

所属: 生命機能研究科.....:

企画名: The 1st student meeting of LGS (Leading Graduate Schools)

開催期間: 2013/10/26～2013/10/27

概要

英語で行われる各大学の博士課程教育リーディングプログラムに在籍する学生の会議である。一日目、「これから担うリーダーに期待する」をテーマとした講演および、参加している学生による各リーディングの紹介を聞きました。その後、事前アンケートにあげられた問題に対して、学生間で議論した。そして、懇親会を通じて、参加者の間との交流を深める。二日目、参加者が9グループに分かれ、「今後求められる人材」をテーマに「リーダー」についてディスカッションを行い、発表した。

企画で得られた収穫

ゲストスピーカの「アカデミック→企業に就職→自分で企業」というキャリアパスに基づいた講演で、自分になかった世界の見方を知り、とても感銘を受けた。さらに、講演後、同じくマレーシア出身で日本に11年間留学していたゲストスピーカに卒業後の進路について多くのアドバイスをいただきました。

また、グループ発表のセッションで様々な観点や考えを知り、「今後求められるリーダー」について考えさせられた。

感想・反省点・今後の改善点

感想: 密度の高い交流会ではなかったが(ディスカッションが短かったため)、出身国をはじめ、様々なバックグラウンドの優秀な方々と交流することで視野が広まり、物事に対する見方が少し変わった。また、何人かの日本人学生が流暢な英語で自分の意見を伝える姿を見て、彼らを見習って、もっと語学(英語と日本語)の勉強に励まなければならないと刺激を受けた。

反省点: 懇親会の時、同じテーブルの学生しか交流していなかった。

改善点: 知識を広めること。積極的に多くの学生と交流すること。語学力を向上させること。

参加報告書

氏名:..... 浦井 健次.....
所属:..... 基礎工学研究科.....

企画名: The 1st student meeting of LGS (Leading Graduate Schools)
開催期間: 2013/10/26～2013/10/27

概要

1 日目は William Lee 氏による「リーダーとは何か」という演題での基調講演および本企画参加の各リーディングプログラムの紹介プレゼンテーションを行った後、「他国と比較し日本に足りないこと」というテーマでの全体ディスカッションを実施した。その後、懇親会会場に移り、参加学生間の交流を深めた。

2 日目は「リーディングプログラムで今後求められる人材」についてグループディスカッションを行い、各々意見をまとめ、プレゼンテーションおよび意見交換を行った。

企画で得られた収穫

今回の企画では、全国各地から 17 のリーディングプログラムの学生が参加し、各大学の意識の高い学生と交流する事ができ、つながりを持つことができた。その中で、融合研究や HWIP の企画に関するアイデアも生まれ、今後の活動の刺激が多く得られた。

また、HWIP 履修生間の交流もあり、互いの理解がより深まった。これらの経験は今後の融合研究などにも生きるものだと確信している。

感想・反省点・今後の改善点

社会が求めるリーダー、私の目指すリーダー、HWIP の求めるリーダー。普段意識して「リーダー」について考える機会が少なかったが、本企画を通じて、改めて目指すべきリーダー像が見えてきたように思う。

参加報告書

氏名:..... Zuben Brown.....

所属:..... 蛋白質研究所・創製学研究室.....

企画名: The 1st student meeting of LGS (Leading Graduate Schools)

開催期間: 2013/10/26～2013/10/27

概要

What characteristics a leader needs.

企画で得られた収穫

How to communicate with students from diverse backgrounds. Preparing presentations under time constraints.

感想・反省点・今後の改善点

The meeting was very successful in its goals to promote thinking about leadership. It was very enjoyable. The first day lecture was good, however I felt the discussion after the lecture was not so successful, because only a few students had a chance to speak due to group size and time constraints.



Above. Final slide of presentation given at 1st leading students LGS meeting.

参加報告書

氏名:..... 横田 将志.....
所属:..... 生命機能研究科.....

企画名: The 1st student meeting of LGS (Leading Graduate Schools)
開催期間: 2013/10/26～2013/10/27

概要

全国のリーディングプログラム履修者が一同に会し親交を深めるとともに次世代のリーダーに求められる条件をグループディスカッションで話し合うことで自分たちの進むべき道を考えた。

企画で得られた収穫

まずWilliam Leeさんの公演ではこれから起業を行う際の目指すべきビジネスモデルであったり日本の問題点などについて自分の経験に基づいた話としてお話いただきました。特にここではビジネスモデルのところに共感しました。日本は低価格量産型ではなく、高機能の高価格商品を扱うビジネスモデルに特化させて行くべきであるという主張に賛成です。低価格量産型のビジネスモデルは企業規模の影響が大きくまた、資源の豊富さに影響するため日本には不向きであると言えます。そのため私たちはこのビジネスモデルに耐えうる知識と発想力を身に付けていく必要があると感じました。

次に日本の問題点に関する全体議論では行き着く先は教育であるということと、欧米と比較しすぎない精神の育成が非常に大切であるということを感じました。おそらく今後の世界はアメリカ型の経済・ビジネスモデルは急速にその勢いを衰退させて行くと考えられます。それに対応するのが各国らしさ日本らしさであると思うので、らしさの創出も私たちの目指すべき方向であると思いました。

感想・反省点・今後の改善点

今回のミーティングでは様々なリーディングプログラムの履修生と話をすることができ非常に刺激を受けました。日本の問題だけでなく世界の問題まで見据えておくことが必要であると感じました。また、英語力の不足も感じたので、しっかりべんきょうをしていきたいと思います。

ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム

学生革新企画提案書

企画名	The 1st Student Meeting of Leading Graduate Schools
代表者	氏名: 渡辺 美紀
	所属研究室・学年: 基礎工 石黒研 M1
	電子メール: watanabe.miki@irl.sys.es.osaka-u.ac.jp
計画立案 メンバ1	氏名: 中西 惇也
	所属研究室・学年: 基礎工 石黒研 M1
	電子メール: nakanishi.junya@irl.sys.es.osaka-u.ac.jp
計画立案 メンバ2	氏名:
	所属研究室・学年:
	電子メール:
計画立案 メンバ3	氏名:
	所属研究室・学年:
	電子メール:
計画立案 メンバ4	氏名:
	所属研究室・学年:
	電子メール:
計画立案 メンバ5	氏名:
	所属研究室・学年:
	電子メール:

開催場所	施設: 公益財団法人 姫路・西はりま地場産業センター
	住所: 〒670-0927 兵庫県姫路市南駅前町123番地
	連絡先: 079-289-2832
日程	2013年 10月 26日から 10月 27日まで
経費	総額: 104,600 円

<p>学生革新企画の目的</p> <p>各プログラムの自己紹介では、学生同士が直に経験を伝え合い、そこから学び応用していくことで、自らのプログラムの活性化に繋がる。基調講演では、米国 eMembrane Inc. の CEO である William Lee さんに「これからは担うリーダーに期待すること」というテーマでご自身の学歴や職歴、会社設立のご経験などのお話して頂き、リーダーとして世界で活躍するために身につけるべきスキルについて学ぶ。</p> <p>また、我々若者が抱える答えの明らかなでない問題をテーマとした全体討論や、グループディスカッションを通して他専門分野の人と対話するコミュニケーション力・人間力を築きあげることが期待される。このように、他大学の志を同じくするものが一堂に会することは、将来的なネットワークを形成する絶好の機会となる。さらに、他大学と連携をとりながら、学生が主体的にイベントを企画し、運営することは「学生のマネジメント能力」を磨くことに繋がる。</p> <p>これらの理由から本学生会議の参加を決め、他大学と連携をとりながら企画を進めている。</p>
--

<p>学生革新企画で期待される収穫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他プログラムの経験を学び、本プログラムに必要なものを効果的に導入することで、自らのプログラムの活性化を図る。 2. 他専門分野の人と対話するコミュニケーション力や人間力を磨く。 3. 志を同じくするものとの将来的なネットワークを形成する。 4. 他大学と連携しながら、多くの人を巻き込んだイベントを企画し運営する経験を得る。
--

スケジュール

10月26日(土)

13:00～eMembrane Inc. CEO William Lee による基調講演

15:00～自己紹介を兼ねたプログラム紹介

大阪大学 ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム

兵庫県立大学 フォトンサイエンスが拓く次世代ピコバイオロジー

東京大学 ライフイノベーションを先導するリーダー養成プログラム

東京工業大学 グローバルリーダー教育院

東京農工大学 グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院

早稲田大学 リーディング理工学博士プログラム

同志社大学 グローバルリソースマネジメント

筑波大学 ヒューマンバイオロジー学位プログラム など

(全17プログラム)

16:30～全体討論

「リーダー像・夢の共有・リーダーシップを用いて何をするのか」

「国益・企業・教育の面において、国際性をどうもたらすか」

「若者がいかに社会に興味を持つことを促すか」

17:30～ホテルチェックイン

18:30～懇親会

10月27日(日)

09:00～グループディスカッション

「リーダーのチーム内に明らかに反抗的なものがある場合どう対処するか」

「企業で働くリーダーに求められる素質とは？」

12:00～終了

13:00～第2回交流会議の運営委員会 (自由参加)

代表者・計画立案メンバが過去に開催した企画

実施年度	企画名（参画者名）	実施内容
2013 年	HumanWare Summer Camp (澤田・中西・徳山・中村・渡辺)	本プログラム特任准教授による講話 融合研究案の創出

